

TOYO TIREのSDGs 2030年のあるべき姿

- グローバルネットワークの強化により、地域の雇用促進と経済の発展・安定化に貢献する
- 多様なリソースを活用して、地域の教育・文化レベルを向上させ、世界全体の安定的発展に貢献する

取り組むべき課題

- 地域社会とのエンゲージメント
- 生物多様性の保全
- 次世代育成支援

TOYO TIREは、将来にわたって社会から必要とされる企業となるには、企業活動に関わるすべての人々（ステークホルダー）と喜びを分かち合うことができる企業を目指すことが重要と考えています。また、持続的に発展していくうえでも、環境問題の克服、人材の確保、地域経済の安定的発展は不可欠と考えています。そのためにはステークホルダーとの対話の機会を重視し、協働による地域課題・社会課題の解決と豊

かな社会づくりに寄与することが重要と考えています。

取り組み方針

TOYO TIREが持つリソースの活用とさまざまなコミュニケーションを通じたステークホルダーとの協働により、事業活動が影響をおよぼす範囲における環境保全や次世代育成支援、地域社会の発展に貢献することで、地域社会との共通価値を創造していきます。

また、事業規模の拡大に伴い、特に環境インパクトが大きいと予想される製造拠点では、その周辺地域の生物多様性への影響の増大リスクに対して、予防原則アプローチで取り組んでいきます。

地域社会とのエンゲージメント

TOYO TIREは、事業活動が地域の経済・環境・社会に対して直接的な影響をおよぼすものと理解し、社会からの評価および期待を真摯に受け止めるとともに、すべての事業所において、積極的な情報発信や対話機会を創出するなど、地域社会とのコミュニケーションを重視しています。そしてコミュニケーションを通じて得られたステークホルダーのニーズを正しく理解し、経営に反映するよう努めています。

環境保全への取り組み

TOYO TIREは、事業活動が特に製造拠点の周辺地域の環境に対して、最も大きな直接的な影響をおよぼすものと理解しています。そのため、製造拠点では周辺地域のステークホルダーとの対話と情報発信によって、事業活動に対する理解と信頼を築くとともに、環境保全のための活動に取り組んでいます。そして生物多様性は地域の暮らしに直接的な利益をもたらす、持続可能な発展にもつながるものとして、地域の生物多様性保全を推進しています。

当社桑名工場では、NPO法人「森林（もり）の風」の協力を得ながら、近隣の放置雑木林を健全な森林に整備する

「TOYO TIRES 緑のつながり・三重」に2014年から取り組んでいます。活動7年目となる2020年は、2019年に完成した「緑の遊歩道」を地域の皆さまに安全に使っていただくための保全活動、そして新たに「緑の広場」の整備活動を実施。コロナ感染予防対策を十分行ったうえで、従業員ボランティア18名と行政担当者、地域の皆さまとともに植樹や丸太椅子の設置を行い完成いたしました。今後は近隣の小学校の子どもたちが利用できるよう、教育機関と協議を進めながら充実を図っていきます。

引き続き、当社の生産拠点が地域と共生し、地域社会の発展へ寄与できるよう、活動を継続していきます。



森林保全活動（当社桑名工場）

次世代育成支援

■ キャリア教育の充実に向けて

当社は、自動車産業の持続的な発展を支える人材の育成は、将来にわたって事業を継続し、モビリティによる豊かな社会を実現していくためにも重要であると考えています。学生のモノづくりへの興味、関心を高め、職業観を早期から育むため、2013年より関西キャリア教育支援協議会*が主催する「情熱教室」に賛同し、当社グループのリソースを活用して職業講話を行っています。

2020年は初めての試みとして、会社と学校をオンラインでつなぎ、リモート授業で中学2年生46名を対象に職業講話を行いました。教室では感染対策を行ったうえでタイヤのカットサンプルを用いたクイズやグループワークを行ってもらいながら、講師は自身の業務の説明を通じて仕事に対する思いや目標を持って取り組むことの大切さを伝えました。カットサンプルを手に取り真剣にクイズ問題に取り組む様子が見られたほか、質問も活発に寄せられました。講師にとっても



リモートで授業を受ける様子

TOPICS

欧州初のタイヤ生産工場の起工式を開催

2020年12月15日に、セルビア共和国インジャヤ市の新工場建設予定地にて、新たに建設するタイヤ生産工場の起工式を実施しました。現地と日本をリモートでつなぎ、日本では当社経営層が、現地ではセルビア共和国大統領、インジャヤ市長ほか約40名がそれぞれの会場で参列しました。

本工場は、最新の製造システムを備え、ドイツの当社R&Dセンターで設計・開発される高品質とコスト競争力を追求した製品を生産し、ヨーロッパ、中東、アフリカ、北米市場に供給する、当社のグローバルサプライチェーンにおいて非常に重要な役割を担います。工場の稼働は2022年4月より予定しており、2023年夏には年産約500万本（乗用車用タイヤ換算）のタイヤ生産体制の確立を計画しています。現地関係者からは、地域の雇用創出のみならず、日本の技術力や日系企業の規律遵守、緻密さなどの特性が事業活動・営みを通じてセルビアの文化にも良い影響をもたらすものと期待が寄せられています。

対面とは異なる環境下でコミュニケーション方法の工夫を考える機会となりました。

今後も当社のリソースを生かし、社会状況に柔軟に対応しながら、自動車やタイヤへの興味を引き出すコミュニケーションを通して次世代育成と自動車産業の持続的発展に貢献していきます。

* 小中高等学校におけるキャリア教育を関西の産業界・労働界から支援する組織

■ 地域社会の発展に向けて

当社は地域社会が持続的に発展していくうえで、次世代を担う子どもたちの健全な育成も重要であると考えています。TOYO TYRE MALAYSIA SDN BHDでは、勉学意欲が高くても経済的理由で十分な学習環境に恵まれない児童や学生に向けて、「奨学金プログラム」を2013年から実施。対象者の決定は、従業員が各家庭を訪れてインタビューを実施し、その内容をもとに行っています。プログラム開始からこれまでの間に、「学部生奨学金プログラム（Undergraduate Scholarship Program）」と「児童教育支援プログラム（Student Education Assistance Program）」を通じ、地元の大学での学位取得を目指す30名の学部生（うち19名は学位を取得）と、カミュンティン市やタイピン市の小学生249名を対象に支援を行い、寄付金は総額約289,000USDドルとなりました。

今後も、地域の課題に応じた次世代育成支援を通して、地域の発展に貢献していきます。



当社は、本工場の従業員のみならず、同国にとつての喜び、誇りとなる工場運営を目指すとともに、地域の方々とのコミュニケーションプログラム等を通じて相互理解を促進し、強い信頼関係を構築していきます。



©Presidency of Serbia/
Dimitrije Goll
ヴチッチ大統領スピーチの様子



鍬入れ式の様子